大泉・土支田地域に 大江戸線の早期延伸を！

駅が遠く通勤・通学が不便な大泉や土支田にお住いのみなさんにとって、大江戸線の延伸は切実な問題です。

東京都は1兆円を超える債務などを理由に延伸には消極的ですが、住民のみなさんの切実な声を届け、都に対して粘り強く働きかけを行っていきたいと思います。

なお延伸を口実にした不要不急の開発に対しては厳しくチェックしていくつもりです。

みなさんと一緒に実現しました！

地下鉄赤塚駅エレベーター設置 メトロ「来年度着工予定」と回答

この間、住民のみなさんと一緒に東京メトロに対して粘り強く求めてきた地下鉄赤塚駅2番出口の2ルート目のエレベーター設置について、東京メトロから聞き取りを行い、担当者課長から「来年度に着工する予定で進めている。」という回答をいただきました。

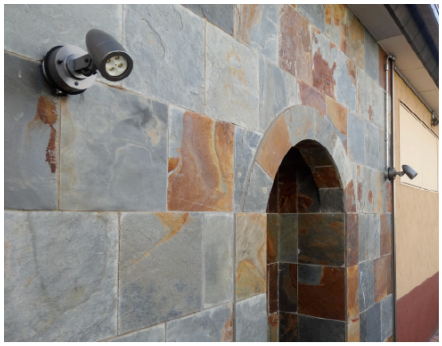
住民のみなさんは8年もの間、設置に向け取り組んでこられました。今回のメトロからの回答は、切望してきた住民のみなさんを励ますものです。

私も早期に着工し、工事が無事完了するよう、住民のみなさんと一緒にひきつづき働きかけを行っていきます。

光が丘IMA東館 ライトを設置！

光が丘ＩＭＡ東館の通りで、一部が暗いという要望をうけ、ＵＲに要請を行いライトを4つ付けていただきました。（写真下）

安全で快適な街への改善のため、ひきつづき取り組んでいきます。



学童クラブの事実上解体を許さない!

学童クラブの全児童対応を行うことを区長が所信表明しました。これは待機児が深刻な学童クラブの定員をなくして、学校応援団ひろば事業と統合し、対象を全児童に広げるというものです。

ひろば事業と学童クラブ目的が全く違う

ひろば事業は、そもそも学校の校庭や体育館などを利用した放課後の「遊び場」づくりを目的とした事業で、親の就労とは関係なく、すべての子どもを対象としています。そのため大規模になりがちで個別対応は難しく、とくに障がい児の受け入れは困難となります。法的な裏付けもありません。

一方、学童クラブは指導員による指導の下、家庭に代わる「生活の場」としての保育事業の一環であり、目的が全く異なります。自民党と公明党は定員がなくなることから待機児対策になるとして議会で繰り返し求めています。

現場からは危惧の声

しかし、すでに統合を実施している自治体ではどうか。

子どもの数が多くなり過ぎ、ケガなどが増え、鬼ごっこなどの遊びが中止されるという事態も生まれています。現場からは「これ以上子どもたちの数が増えたら大変なことになる」という声も聞かれます。これではとても保育とは言えないのではないでしょうか。

待機児対策は増設を!

学童クラブの待機児問題は深刻ですが、目的が異なるものを統合することによって、きめ細やかな対応ができなくなることは問題です。だからこそ国も定員は40名までが適当と強調しているのです。待機児対策は詰め込みではなく、学童クラブの増設こそ求められています。